

2 運転事故に関する事項

2.1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

(1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

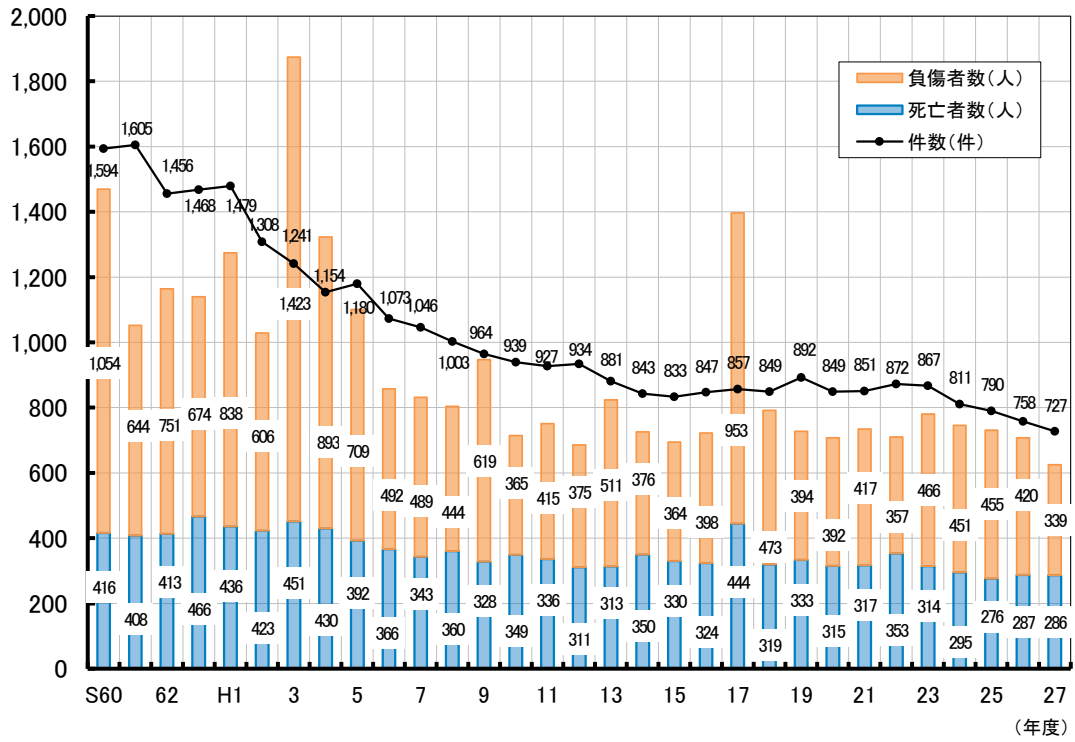
- 鉄軌道における運転事故¹⁰ 件数は、長期的には減少傾向にあり、平成25年度から700件台で推移しています。平成27年度は、727件で対前年度31件(4.1%)減でした。
- 平成27年度に発生した運転事故による死亡者数¹¹ は、286人で対前年度1人(0.3%)減で、近年はほぼ横ばいとなっています。
- また、運転事故による死傷者数¹¹ は、625人で対前年度82人(11.6%)減でした。この中には、(4)に記載する主な事故の死傷者16人が含まれています。運転事故による死傷者数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあります。JR西日本 福知山線列車脱線事故が発生した平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故が発生した年度では死傷者数が多くなっています。
- なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故¹² 件数は、平成27年度に発生した運転事故727件のうち11件(1.5%)でした。

¹⁰ 運転事故の種類については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。なお、自殺を直接原因とするものは、人身障害事故、踏切障害事故及び道路障害事故に該当しませんが、一部に自殺かそうでないか判別できないものがあり、それが人身障害事故、踏切障害事故及び道路障害事故として、それぞれ国へ報告されています。

¹¹ 運転事故による死傷者数には、自殺によるものは含めないこととしています。また、自殺の行為に直接的に巻き込まれたことにより第三者が死傷した場合についても、同様な扱いとしています。

¹² 運輸安全委員会が調査対象とする運転事故は、鉄道における列車衝突事故、列車脱線事故及び列車火災事故、その他の運転事故であって、5人以上の死傷者を生じたもの、乗客、乗務員等に死亡者を生じたもの等です。詳しくは、<http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html> をご覧ください。

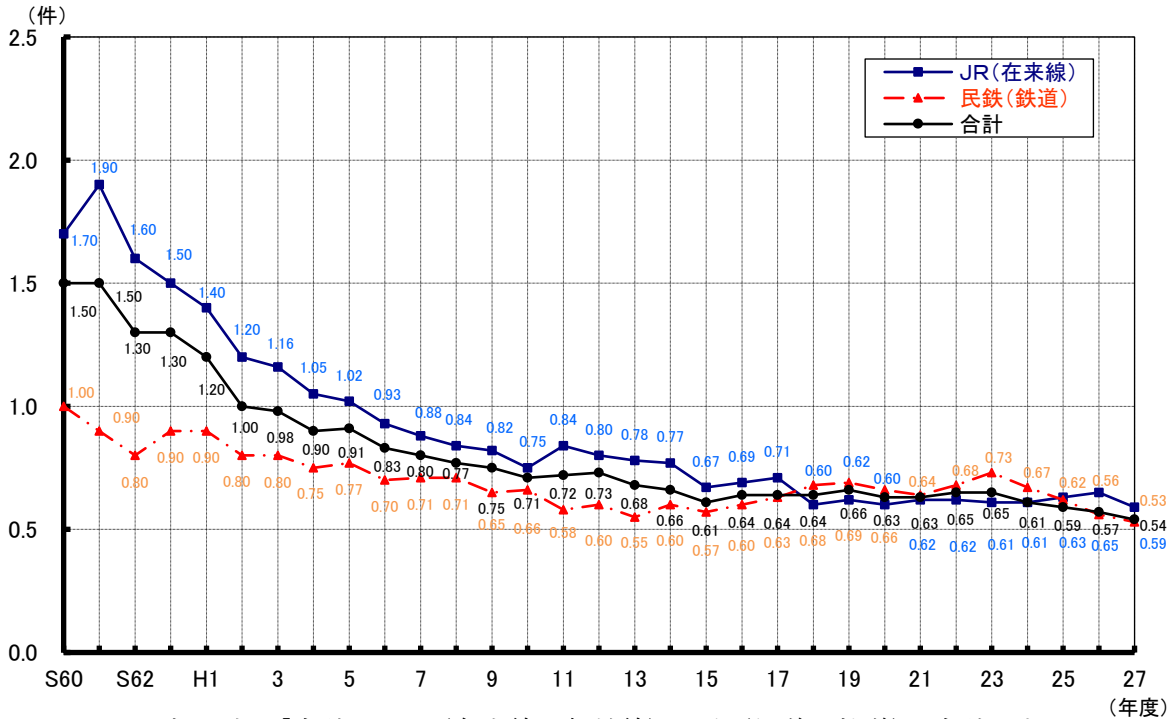
図5： 運転事故の件数及び死傷者数の推移



(2) 列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移

○列車走行百万キロ当たりの運転事故件数は、運転事故件数と同様に長期的には減少傾向にあり、平成25年度から0.5件台で推移しています。平成27年度は0.54件でした。

図6：列車走行百万キロ当たりの運転事故件数の推移



※ グラフ中の「合計」は、JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計です。

(3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

○平成27年度に発生した運転事故の内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故が416件(57.2%)で対前年度33件(7.3%)減、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が236件(32.5%)で同10件(4.1%)減、路面電車と自動車等が道路上で接触するなどの道路障害事故が63件(8.7%)で対前年度15件(31.3%)増となっています。列車事故¹³は10件(1.4%)で対前年度2件(16.7%)減でした。

○身体障害者の方に係る運転事故は、6件(視覚障害者の方の事故が1件、聴覚障害者の方の事故が2件、肢体不自由の方の事故が3件)でした。

○平成27年度に発生した運転事故による死亡者数は、(1)に記述したとおり286人で、その内訳は、人身障害事故によるものが185人(64.7%)で対前年度8人(4.1%)減、踏

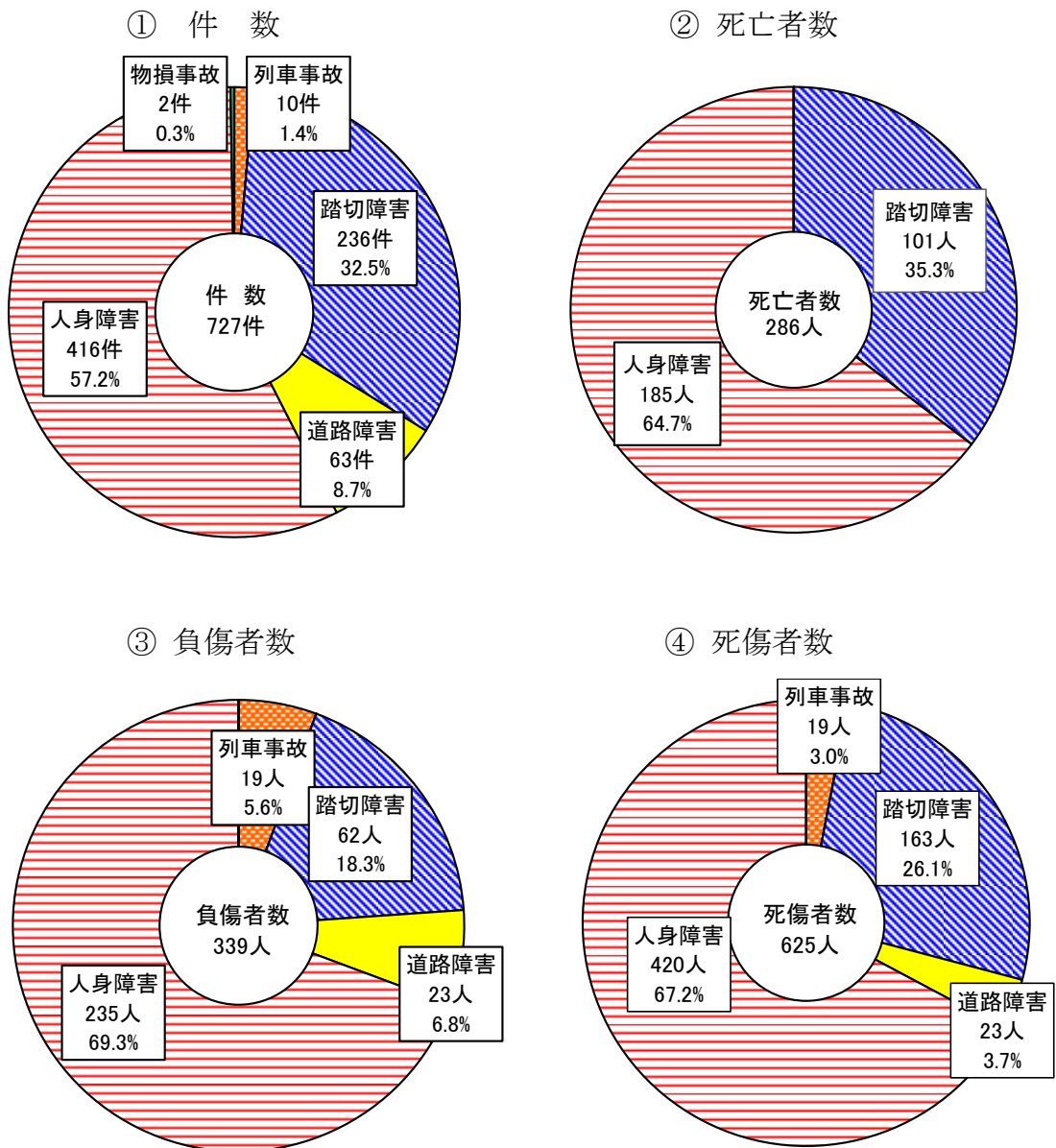
¹³ 「列車事故」とは、列車衝突事故(軌道における車両衝突事故を含む。)、列車脱線事故(軌道における車両脱線事故を含む。)及び列車火災事故(軌道における車両火災事故を含む。)をいいます。

切障害事故によるものが101人(35.3%)で同11人(12.2%)増となっています。

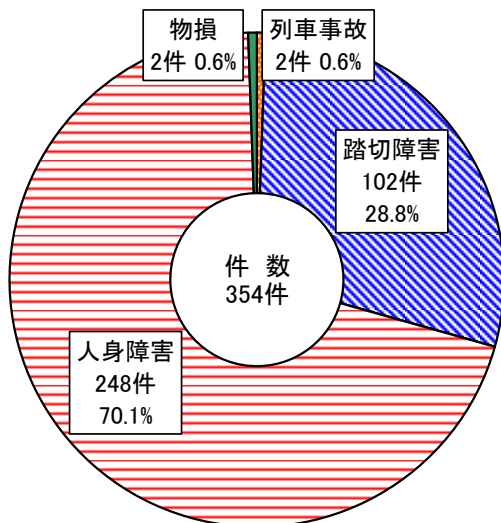
○平成27年度に発生した踏切事故件数は、236件(32.5%)です。(踏切障害事故236件のほかに、踏切障害に伴う列車脱線事故はありませんでした。)

○平成27年度に新幹線において発生した運転事故は、平成27年6月30日にJR東海の東海道新幹線で発生した列車火災事故と平成27年8月9日にJR西日本で発生した人身障害事故の2件です。

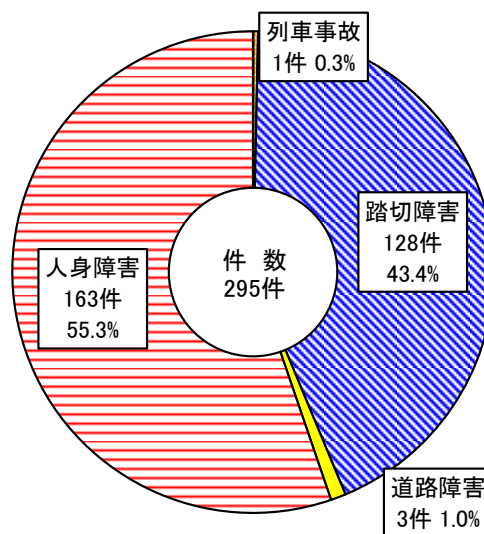
図7： 運転事故の種類別の件数及び死傷者数(平成27年度)



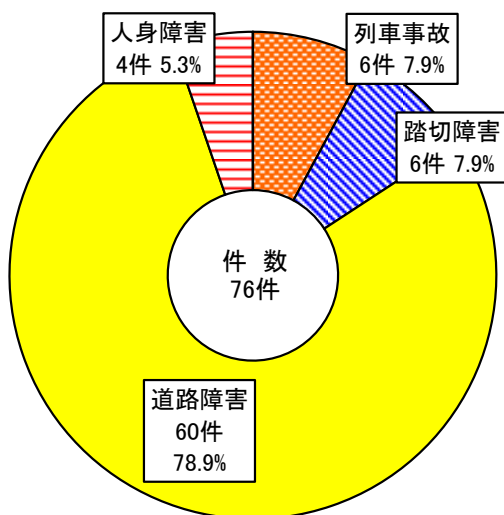
⑤ JR(在来線)の件数



⑥ 民鉄(鉄道)の件数



⑦ 民鉄(軌道)の件数



(4) 平成27年度における主な事故の発生状況

○平成27年度の主な事故(乗客乗務員に死亡者又は5人以上の死傷者が発生した事故)は、次のとおりです。

表3: 主な事故の発生状況(平成27年度)

年 月 日	事業者	場 所	事故 種類	死 亡	負 傷	脱線 両数	概 要
H27 12.11	JR 東日本	山田線 平津戸駅 <small>ひらつと</small> ～松草駅 <small>まつくさ</small> 間 (岩手県宮古市)	列車 脱線	0	16	1	当該列車運転士は、速度約 50～60km/h で力行運転中、前方に倒木を認めたため、直ちに非常停止手配を扱ったが倒木と衝撃し、土砂に乗り上げ 4 軸すべてが脱線した。

2.2 列車事故の発生状況

○平成27年度に発生した列車事故件数は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の1.4%に当たる10件で対前年度2件(16.7%)減でした。列車事故による死亡者はありませんでしたが、負傷者は19人で同17人(47.2%)減でした。

図8：列車事故の件数及び死傷者数の推移

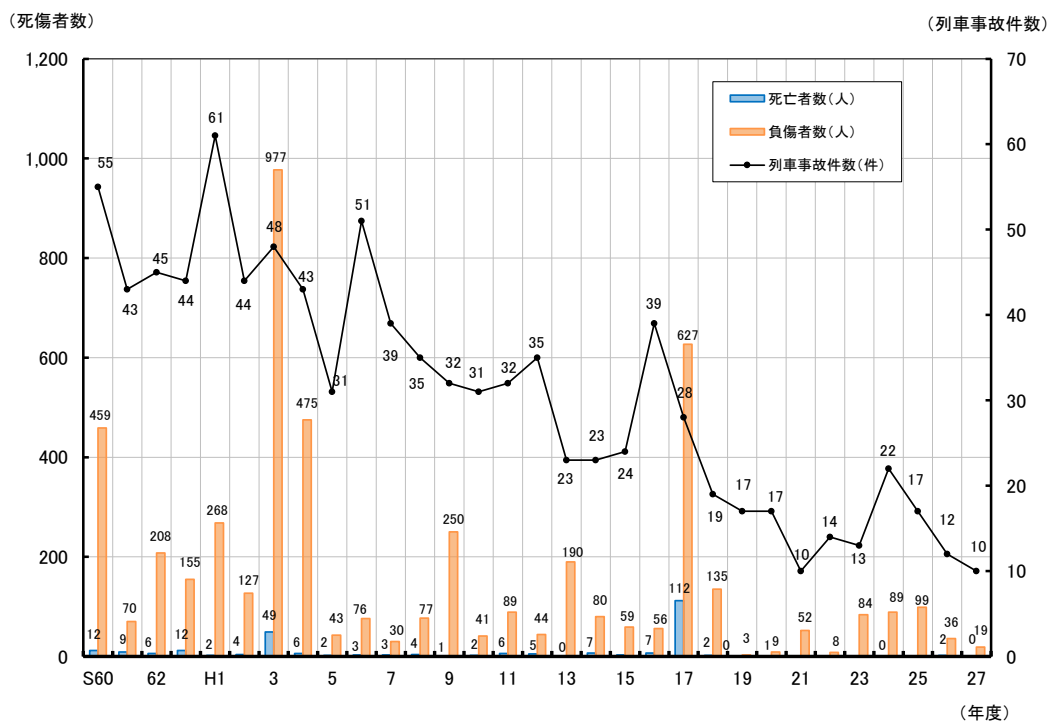
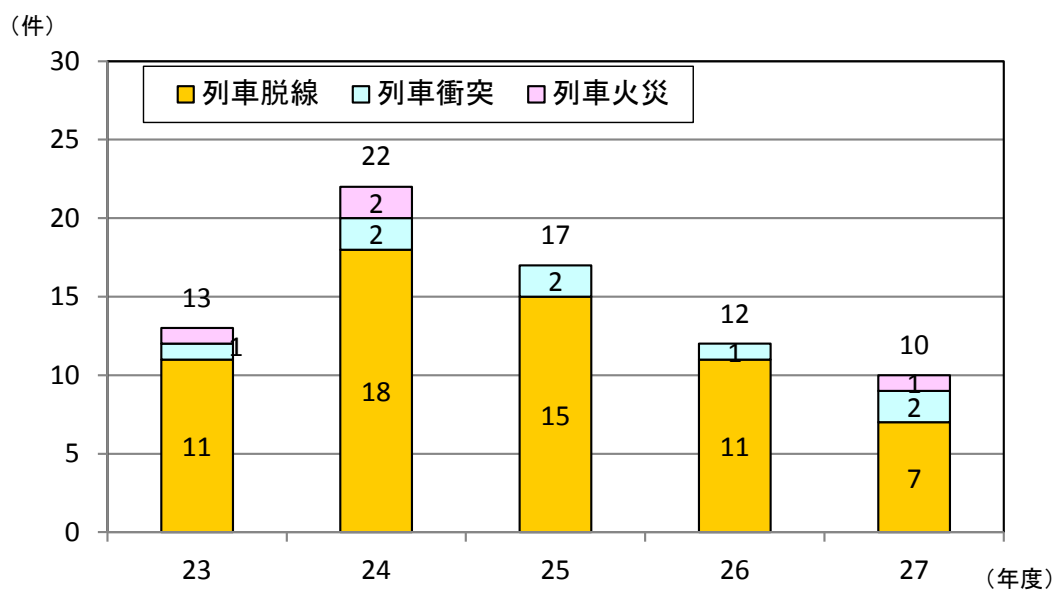


図9：列車事故の件数の内訳(過去5年間)

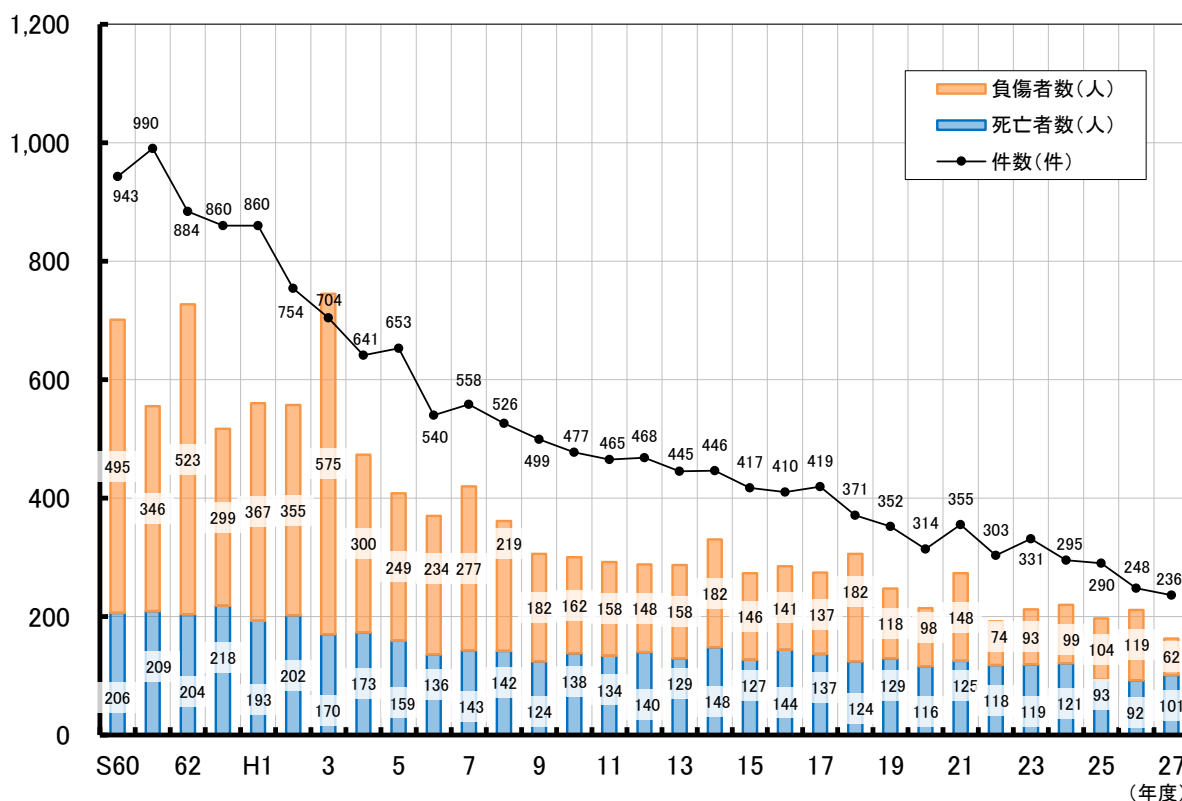


2.3 踏切事故の発生状況

(1) 踏切事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成27年度に発生した踏切事故¹⁴は、2.1(3)に記述したとおり運転事故全体の32.5%に当たる236件で対前年度12件(4.8%)減、踏切事故による死亡者数は101人で同9人(9.8%)増、死傷者数は163人で同48人(22.7%)減でした。
- 身体障害者の方に係る踏切事故は、3件(聴覚障害者の方が第1種踏切道で2件、肢体不自由の方が第1種踏切道で1件)でした。

図10: 踏切事故の件数及び死傷者数の推移



(2) 踏切種別別・衝撃物別及び原因別の踏切事故件数等

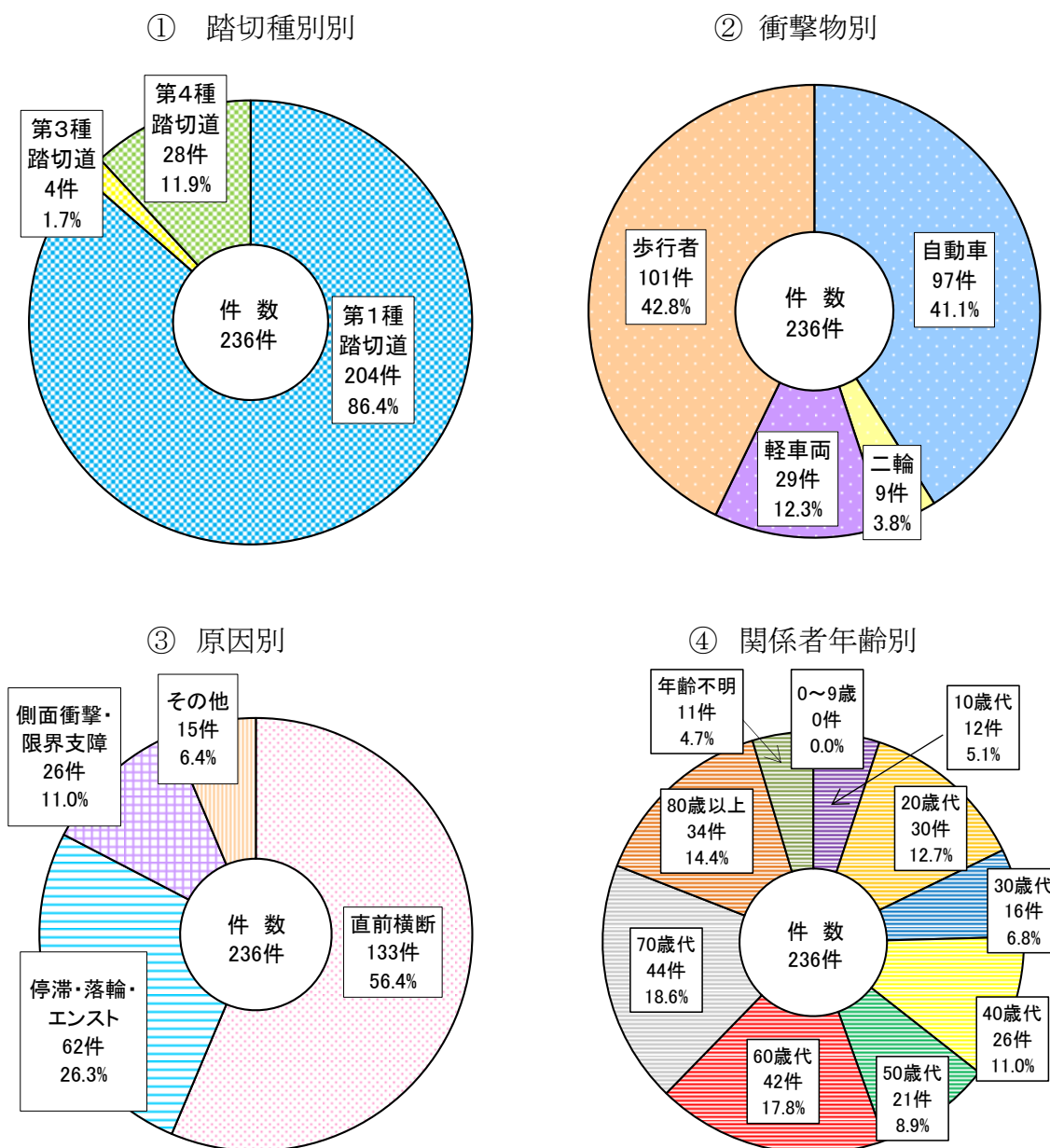
- 平成27年度に発生した踏切事故236件の踏切種別別¹⁵の内訳は、第1種踏切道204件(86.4%)、第3種踏切道4件(1.7%)、第4種踏切道28件(11.9%)となっています。

¹⁴ 「踏切事故」については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。

¹⁵ 踏切種別には第1種踏切道、第2種踏切道、第3種踏切道、第4種踏切道があります。詳細については、後掲の「用語の説明」をご覧ください。

- 衝撃物別の内訳は、自動車97件(41.1%)、二輪9件(3.8%)、自転車などの軽車両29件(12.3%)、歩行者101件(42.8%)となっています。
- 原因別の内訳は、直前横断133件(56.4%)、落輪・エンスト・停滞62件(26.3%)、側面衝撃・限界支障26件(11.0%)、その他15件(6.4%)となっています。

図11：踏切種別別、衝撃物別、原因別及び関係者年齢別の踏切事故件数(平成27年度)



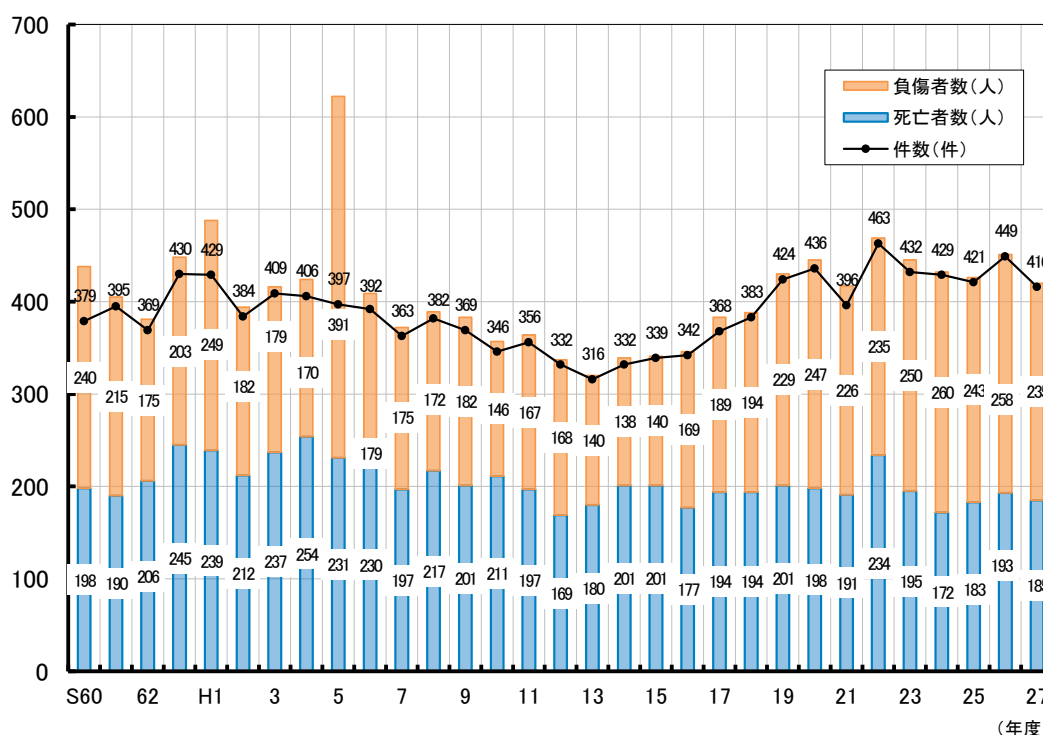
側面衝撃・限界支障：自動車等が通過中の列車等の側面に衝突したもの及び自動車等が列車等と接触する限界を誤って支障し停止していたため、列車等が接触したもの
 停滞・落輪・エンスト：自動車等が落輪、エンスト、交通渋滞、自動車の運転操作の誤り等により、踏切道から進退が不可能となったため列車等と衝突したもの

2. 4 人身障害事故の発生状況

(1) 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移等

- 平成27年度に発生した人身障害事故は、2. 1(3)に記述したとおり、運転事故全体の57. 2%に当たる416件で対前年度33件(7. 3%)減、人身障害事故による死亡者は185人で同8人(4. 1%)減、死傷者は420人で同31人(6. 9%)減でした。
- 身体障害者の方が死傷した人身障害事故は3件(視覚障害者の方の事故が1件、肢体不自由の方の事故が2件)でした。

図12： 人身障害事故の件数及び死傷者数の推移



(2) 原因別の人身障害事故件数等

- 人身障害事故の原因別の内訳は、公衆等が無断で線路内に立ち入る等して列車等と接触したもの(線路内立入り等での接触)が207件(49. 8%)で対前年度増減なし、これによる死亡者数は154人で同2人(1. 3%)減でした。
- 旅客等がプラットホームから転落したことにより列車等と接触したもの(ホームから転落して接触)は39件(9. 4%)で対前年度18件(31. 6%)減、これによる死亡者数は18人で同6人(25. 0%)減でした。
- プラットホーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)は159件(38. 2%)で対前年度11件(6. 5%)減、これによる死亡者数は10人で前年度と同数でした。

- その他、乗降口の扉に手荷物等を挟んだまま列車が発発して旅客が負傷したものなど鉄道係員の取扱い等によるものは11件でした。
- 「ホームから転落して接触」と「ホーム上で接触」を合わせた「ホームでの接触」は198件で人身障害事故件数の47.6%を占めています。

図13：人身障害事故の原因別の件数及び死傷者数(平成27年度)

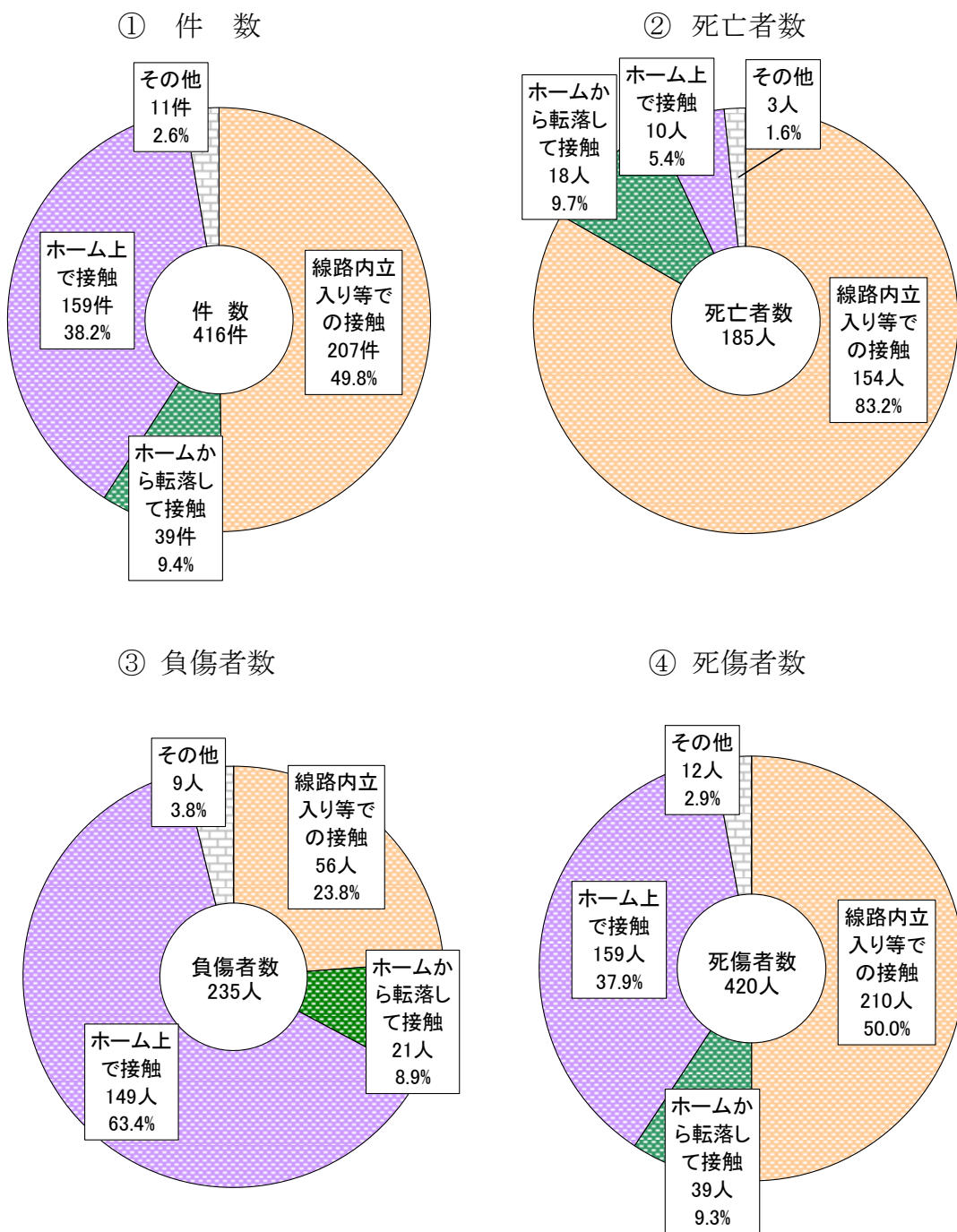


図14: 人身障害事故の原因別件数の推移

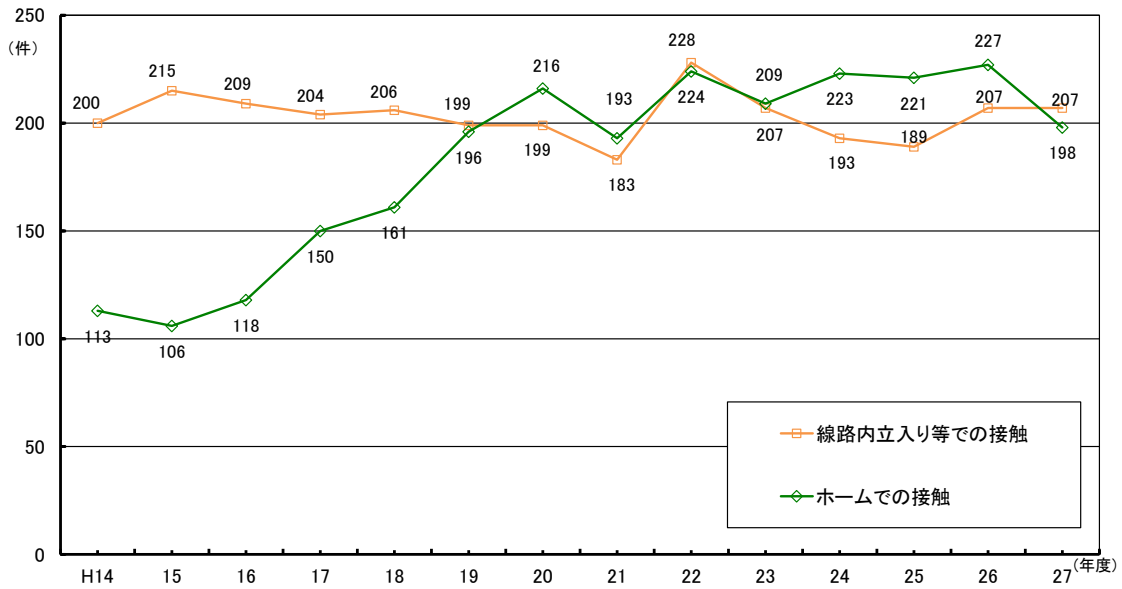
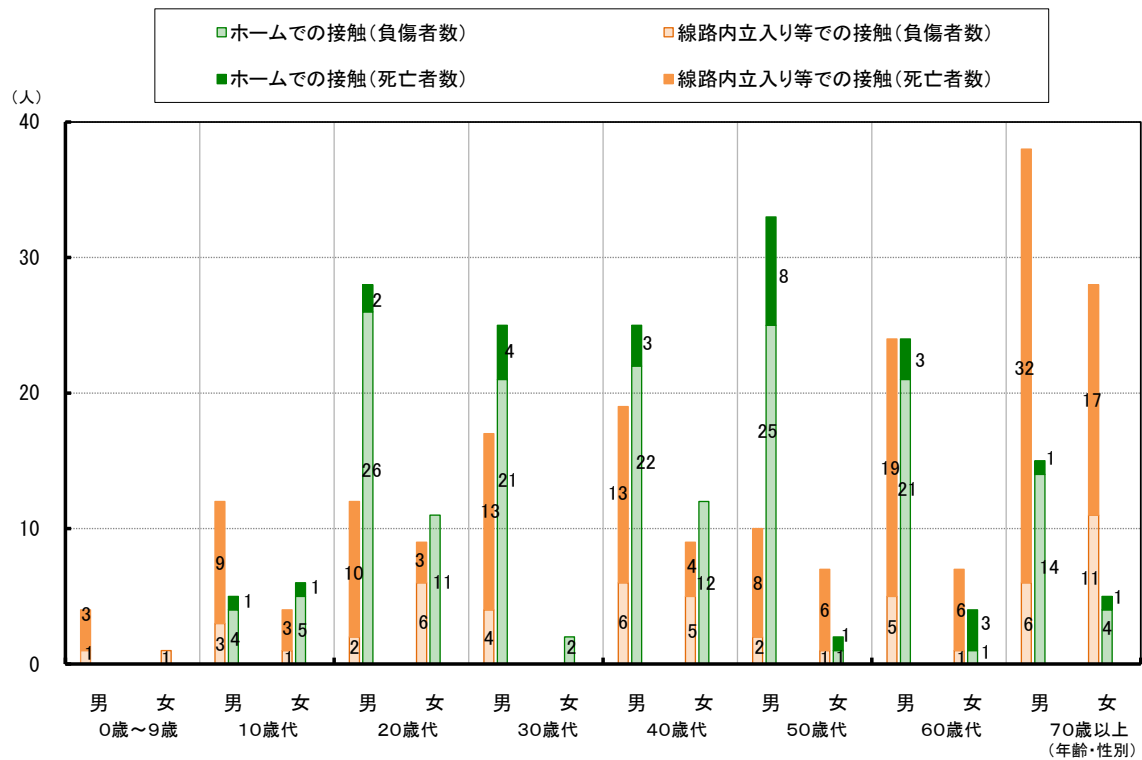


図15: 人身障害事故による死傷者数の年齢別人数(平成27年度)



※年齢の把握ができなかった場合は、除いています。

2.5 事業者区分別の運転事故件数

○事業者区分別の運転事故件数は、表4のとおりです。

表4:事業者区分別の運転事故件数(平成27年度)

(件)

事業者区分 \ 事故種類	列車 衝突	列車 脱線	列車 火災	踏切 障害	道路 障害	人身 障害	物損	合計
JR(在来線)		2		102		248	2	354
JR(新幹線)			1			1		2
民鉄等		1		128	4	163		296
大手民鉄				83		108		191
公営地下鉄等						32		32
新交通・モノレール								0
中小民鉄		1		45	4	23		73
路面電車	2	4		6	59	4		75
合計	2	7	1	236	63	416	2	727
地域鉄道【再掲】		3		46	53	17		119
地域鉄道(鉄道)		1		42	3	14		60
地域鉄道(軌道)		2		4	50	3		59

※1 「大手民鉄」は、東京地下鉄を除く15社です。

※2 「公営地下鉄等」は、東京地下鉄を含みます。

※3 「中小民鉄」は、準大手鉄道事業者を含みます。

※4 「地域鉄道」は、11ページの脚注9をご覧ください。

